大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

Press Release

取り組み

2026年4月24日

＼研究成果をワンストップでオープン／

研究マネジメント総合支援システム「REMS」を開発し本格稼働

―研究計画・成果管理をつなぎ、研究活動全体を横断的に支援―

❖ 概要

大阪大学オープンサイエンス推進室は、研究成果を迅速かつ効率的に公開し研究者の業績管理を支援するため、研究マネジメント総合支援システム「REMS（Research Management Support System）」を開発し、2026 年 3 月から本格稼働を開始しました。

REMS トップページ

本システムは、機関リポジトリ「OUKA※1」やデータ集約基盤「ONION※2」、研究者データベース「researchmap※3」など既存基盤との連携により、論文・研究データの公開と業績集積を一元化するとともに、著者最終稿や根拠データの公開申請と業績登録をワンストップで実施できる仕組みを構築しました。

研究者はワンストップで論文の著者最終稿や成果の根拠となる研究データの公開申請を行い、その情報が研究業績としても登録されます。また、研究データ管理計画（DMP）やプロジェクト情報との連動、入力支援、承認フローの半自動化などにより、作業の手間を大幅に軽減します。

今後はより高度な支援機能開発も視野に、オープンアクセス加速化事業の成果として本システムの普及を図ります。

❖ 開発背景

国際的にオープンサイエンスやオープンアクセスの潮流が加速しており、日本でも 2024 年に政府が策定した「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に基づき、競争的資金による研究成果の公開義務化や DMP の作成が求められています。研究者は論文やデータの公開、DMP 作成、業績登録など多岐にわたる手続きに追われるようになり、大学として効率的な支援体制の構築が急務となっていました。

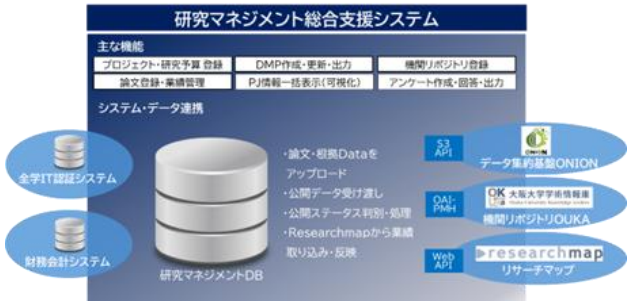
❖ 開発内容

OUKA（機関リポジトリ）、ONION（データ集約基盤）、researchmap（研究者データベース）など既存基盤との連携により、論文・研究データの公開と業績集積を一元化するとともに、著者最終稿や根拠デー

タの公開申請と業績登録をワンストップで実施できる仕組みを構築しました。これにより、研究者は繰り返し入力を行う必要がなくなり、入力補助機能を通じて研究支援者による協働も可能となります。

さらに、オープンアクセス対応にとどまらず、DMP やプロジェクト情報との自動連携により、DMP 作成の負担軽減と研究プロジェクト全体の可視化を実現するとともに、事務的なやり取りの効率化を図っています。

加えて、研究業績管理や Institutional Research（IR）に活用可能なアンケート機能を備え、研究マネジメントを総合的に支援します。本システムは、2026 年3月より全学向けに本格稼働しており、オープンアクセス加速化事業の一環として整備いたしました。



REMS の主な機能

❖ 本システム開発が社会に与える影響（本取り組みの意義）

研究者の事務的な負担を大幅に軽減して研究に専念できる環境を提供するとともに、論文や研究データの迅速な公開を促すことで研究成果の透明性と再利用性を高め、REMS の普及を通じてオープンサイエンス推進の実践的なモデルとなることが期待されます。また、研究成果やプロジェクト情報の蓄積を通じて、学内の研究支援施策や人材育成の検討に資する情報基盤として活用されることが見込まれます。

❖ 用語の解説

※1 OUKA

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive。大阪大学学術情報庫。学術論文や研究データを公開する機関リポジトリ。

※2 ONION

Osaka university Next-generation Infrastructure for Open research and open InnovatioN。大阪大学のデータ集約基盤。スーパーコンピュータ SQUID と連携する研究データを保存・共有するための基盤。

※3 researchmap

科学技術振興機構が提供する研究者データベース。研究者の業績情報を管理する基盤。